

令和元年度

所 報



鳥取市教育委員会
鳥取市教育センター

はじめに

鳥取市教育センターは、平成19年4月に「鳥取市の教育課題である学校不適応の解消に向け、学校や家庭を中心とした各種相談や支援を提供し、子どもたちの健やかな成長を図る」ことを目的として設置され、令和元年度で13年目を迎えました。

平成28年4月に策定された「鳥取市教育振興基本計画」は、令和2年度で最終年度となります。基本計画にある「ふるさとを思い 志をもつ子を育て、夢と希望に満ちた次代を“ひらく”！」の基本理念のもと、教育センターは「教職員研修の充実」「グローバル人材育成に向けた取組」「適応指導教室の運営」を三つの柱として、各学校や関係機関と連携を図りながら事業を進めてきました。

「教職員研修の充実」においては、特別支援教育の視点を基盤とした研修体系の中で、中堅教諭等資質向上研修を軸としたコラボ研修を実施し、各学校における協働実践、校内OJTの推進等を図ってきました。成果として、授業改善の取組、児童生徒理解の実践や工夫が多く見られました。

「グローバル人材育成に向けた取組」として、外国語指導助手（ALT）が中心となり実施している「きなんせ！English World・キャラバン」は回数を精選し、地域人材を活用した「小学校外国語活動人材支援事業」も継続して行いました。今後も外国人や外国語に触れ合う機会を提供し、子どもたちが英語を使って楽しく活動に取り組むことを支援していきたいと考えています。

また、特別支援教育係は担当業務を整理し、適応指導教室「すなはま」の運営や支援の充実に努めました。文部科学省の通知「不登校児童生徒への支援の在り方」で、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があることが支援の視点として示されました。今後もこの視点をもとに、個別のニーズに応じた支援体制の強化と学校・保護者との連携強化を図っていきます。

さて、予測困難で急速に変化する社会の中で、新しい時代「令和」がやってきました。そして、令和2年度には小学校で新教育課程の実施が始まり、中学校では移行期間最終年度を迎え、「働き方改革」における取組が推進される等、大きな変化が進んでいくと思われれます。そのような中、教育センターは、「学校と研修」「学校と児童生徒（保護者）」を「つなぐこと」をより一層意識して学校や関係機関と連携をさらに深め、「すべての子どもが しあわせになるために」をめざして、その役割を果たしていきたいと考えております。

最後になりましたが、今年度の教育センター運営に対し、格別の御協力と御支援を賜りました関係諸機関の皆様には厚く感謝申し上げますとともに、今後とも、より一層の御指導・御支援をよろしくお願いいたします。

令和2年3月

鳥取市教育センター

所長 東田 重高

目 次

はじめに

I 鳥取市教育センターの概要

1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	組織及び業務	1

II 令和元年度（平成31年度）の事業概要

1	教職員研修のねらい、実績	2
2	教師力サポート研修、次代を担うとっとり教職員派遣事業	4
3	中堅教諭等資質向上研修キャリア体験研修の事例	6
4	先輩に学ぶ 講師研修会	8
5	学校支援人材活用 ～小学校外国語活動支援員～	9
6	きなんせ！English World	10
7	適応指導教室「すなはま」「レインボー」の運営	12
8	適応指導教室「すなはま」「レインボー」の相談状況	16

I 鳥取市教育センターの概要

1 設置の目的

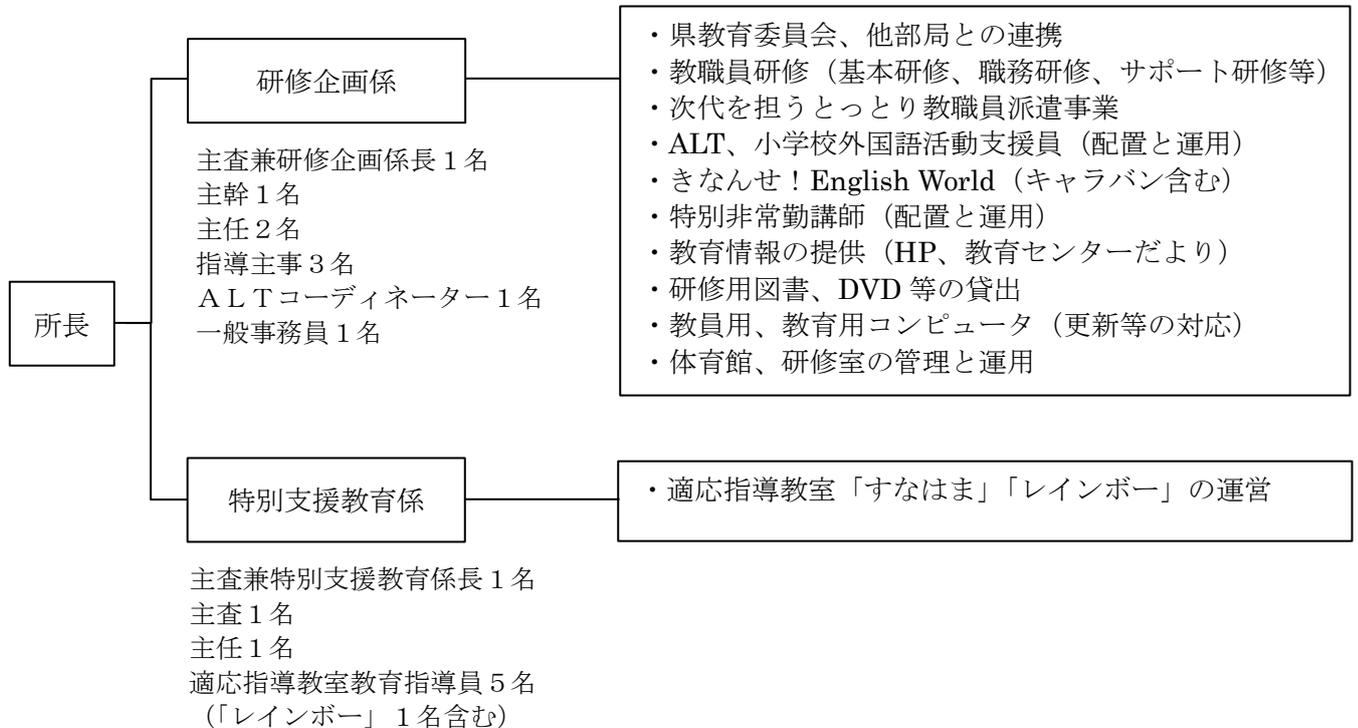
教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

(「鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例」から)

2 沿革

平成19年	4月	1日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町150番地に鳥取市教育センター設置
平成19年	4月	26日	鳥取市教育センター開所式
平成20年	4月	1日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所3階に移設
平成28年	4月	1日	特別支援教育係を新設、研修企画係との2係体制
平成28年	11月	11日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所2階に移設 「レインボー」に名称変更
平成30年	5月	1日	鳥取市教育センター内に「こども発達支援センター」開設

3 組織及び業務



1 教職員研修のねらい・実績

(1) ねらい

鳥取市のすべての子どもが幸せになるために、特別支援教育の視点を基盤として教職員の資質・能力の向上をめざし、学校経営の工夫・改善を図りながら、鳥取市の教育課題である学校不適應解消（未然防止）・学力向上に向けた研修とする。

(2) 実績（研修体系順）

日時	研修名 (コラボ開催を含む)	内容（講義題等）	講師	人数 (人)
4/2	初任者研修① 新規採用養護教諭研修①	鳥取市教職員としての責務と使命 児童生徒との信頼関係を築くために	鳥取市教育委員会	62
5/20 ～7/9	初任者研修②	初任者学校訪問（授業参観・管理職との 協議・初任者との面談）	鳥取市教育委員会	56
7/29	初任者研修③ 新規採用養護教諭研修② 講師研修①	すべての子どもが自分のよさを発揮できる 集団づくり	岡山大学 教授 佐藤 暁	108
12月 末まで	初任者研修④	先輩教諭の授業づくりや学級経営に学ぶ	先輩教諭	56
4/23	中堅教諭等資質向上研修① 16年目研修①	子ども同士の人間関係の育成を図るピ ア・サポート	兵庫教育大学 特任教授 池島 徳大	63
7/4	中堅教諭等資質向上研修② キャリアデザイン研修①	学校不適應解消（未然防止）のための取 組	福岡教育大学 教授 小泉 令三	81
7/30	中堅教諭等資質向上研修③ 6年目研修①	すべての子どもが自分のよさを発揮できる 学級・学校づくり	国立舞鶴工業高等専門学校 特命教授 後野 文雄	74
8/20	中堅教諭等資質向上研修④ 特別支援教育ステップアップ研修② 学校司書研修（選択）	子どもたちの望ましい行動を増やすポジ ティブ行動支援	大阪樟蔭女子大学 准教授 田中 善大	92
11/12	中堅教諭等資質向上研修⑤ 16年目研修②	今、求められるキャリア教育	国立教育政策研究所 総括研究官 長田 徹	69
12/3	中堅教諭等資質向上研修⑥ 6年目研修②	主体的・対話的で深い学びの実現に向け た授業づくり	國學院大學 教授 田村 学	74
5/14	校長研修①	すべての子どもを支援するための学校づ くり	広島大学 教授 栗原 慎二	57
8/6	校長研修②	今、求められる魅力ある学校づくり	国立教育政策研究所 総括研究官 藤平 敦	54
5/21	副校長・教頭研修①	自然災害に対する防災教育の現状と展望	滋賀大学 教授 藤岡 達也	60
8/9	副校長・教頭研修②	子ども同士のかかわりを育む生徒指導	立命館大学 教授 菱田 準子	64
5/28	授業づくり研修① 教務主任研修	鳥取市における学力向上の取組	鳥取市教育委員会	59

10/25	授業づくり研修②	主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくり	国立教育政策研究所 総括研究官 千々布 敏弥	52
5/31	道徳教育推進教師研修 (全)	特別の教科 道徳の授業づくりと評価について	東京学芸大学 教授 永田 繁雄	59
7/5	情報化推進リーダー研修 (全)	I C T活用による授業改善と児童の情報活用能力の育成	園田学園女子大学 教授 堀田 博史	53
6/25	学校司書・司書教諭研修 (全)	司書・司書教諭の役割と魅力ある図書館づくり	鳥取県立図書館 鳥取市教育委員会	107
11/21 ～12/5	講師研修②	先輩教諭の授業づくりや学級経営に学ぶ	会場校校長 先輩教諭	47
7/8	特別支援教育主任研修 (全)	職務と校内体制づくり	早稲田大学 教授 高橋 あつ子	57
7/16	特別支援学級担任研修 (全)	自立活動の基礎的理解と個別の指導計画の作成	筑波大学 教授 下山 直人	61
4/25	特別支援教育支援員研修①	発達障がい特性の理解と支援の在り方	おおの内科小児科医院 院長 大野 耕策	58
7/12	特別支援教育支援員研修② 学校司書研修 (選択)	発達障がい特性の理解と支援方法の理解	NPO 法人 EDGE 会長 藤堂 栄子	91
8/19	特別支援教育ステップアップ研修①	通常の学級における「自立活動」とは	関西国際大学 教授 中尾 繁樹	63
8/22	特別支援教育ステップアップ研修③ 生徒指導専任相談員研修② 学校司書研修 (選択)	家族支援と愛着障害	大正大学 教授 玉井 邦夫	80
5/16	人権教育主任研修①	学校における人権教育の推進	鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会	58
10/21	人権教育主任研修②	いじめ問題への対応と児童生徒理解	鳴門教育大学 教授 阿形 恒秀	55
5/10	学校不適応対策研修①	CO教員の役割と校内体制づくり	立命館大学 教授 野田 正人	57
9/27	学校不適応対策研修②	不適応対策の現状と未然防止の取組	鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会	58
4/26	生徒指導専任相談員研修①	職務と求められる役割	鳥取市教育委員会	13
6/3	外国語活動支援員研修	小学校外国語活動の内容と、小学校外国語活動支援員の役割	島根大学 教授 大谷 みどり	11
5/23	外国語教育小中連携研修	今、外国語教育に求められるもの	文部科学省初等中等教育局 視学官 直山 木綿子	56
6/4	教職員人権教育研修	鳥取市の人権課題 鳥取市の人権教育の取組	鳥取市中央人権福祉センター 鳥取教育委員会	51
6/24	特別支援教育ワークショップ①	子どもへのよりよい支援の在り方	島根県立大学 准教授 山田 洋平	31
11/7	特別支援教育ワークショップ② 幼保小中連携研修	子どもの育ちを支える体づくり	広島大学 教授 七木田 敦	112
6/29	ことばの発達に関する講演会	ことばの発達過程と発達に応じた指導・支援	国立成育医療研究センター 副院長 小枝 達也	121

2 教師力サポート研修・次代を担うとっとり教職員派遣事業

(1) 教師力サポート研修

① ねらい

研修と学校をつなぐために、学校に課題に即したワークショップ型の出前研修を提供し、教職員の指導力向上及び学校の活性化を支援する。

② 実績

		派遣先	教科等	テーマ・内容	対象
1	5月15日(水)	小教研生活・総合部会	生活科・総合的な学習の時間	◆授業づくり 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生活科・総合的な学習の時間の指導の理解と実際	部員 80名
2	6月4日(火)	河原第一小学校	校内授業 算数	◆授業づくり 算数科における河-スタンダードと児童の発言をコーディネートする教師の発問や問い返し	職員 20名
3	6月5日(水)	国府東小学校	校内授業 道徳	◆授業づくり 自らつながりたくましく生きる児童の育成をめざした授業づくり	職員 15名
4	6月26日(水)	末恒小学校	校内研修 アセス活用	◆学級づくり・集団づくり 子どもたちのよりよい人間関係づくりに向けたアセスの活用	職員 20名
5	6月26日(水)	国府東小学校	校内授業 外国語活動	◆授業づくり 自らつながりたくましく生きる児童の育成をめざした授業づくり	職員 15名
6	7月3日(水)	国府東小学校	校内授業 生活・総合	◆授業づくり 自らつながりたくましく生きる児童の育成をめざした授業づくり	職員 15名
7	7月10日(水)	富桑小学校	校内研修 アセス活用	◆学級・集団づくり 子どもたちのよりよい人間関係づくりに向けたアセスの活用	職員 16名
8	7月17日(水)	津ノ井小学校	校内授業 道徳	◆授業づくり 主体的・対話的で深い学びを展開する道徳授業の工夫	職員 20名
9	7月23日(火)	若葉台小学校	校内研修 総合的な学習の時間	◆授業づくり 総合的な学習の時間の年間指導計画作成に向けての単元構成と主体的・対話的で深い学びの考え方	職員 20名
10	7月24日(水)	高草中学校	校内研修 アセス	◆学級・集団づくり アセスの活用方法と結果の見取り方	職員 30名
11	8月7日(水)	気高中学校区 保育園・小学校 合同研修会	中学校区 保育園・小学校 合同研修会	◆特別支援教育 愛着障がいが見られる園児・児童への関わり方及び保護者啓発と保育園から小学校へのスムーズな移行及び支援のあり方	教職員 50名
12	8月7日(水)	小教研生活・総合部会	生活科・総合的な学習の時間	◆授業づくり 生きる力を育む生活科・総合的な学習の時間のための思考ツールを使ったワークショップ	部員 80名
13	8月20日(火)	倉田小学校	校内研修 算数	◆授業づくり 進んで課題に取り組み、楽しく学び合う算数の授業づくり	職員 20名
14	8月23日(金)	若葉台小学校	校内研修 総合的な学習の時間	◆授業づくり 総合的な学習の時間の年間指導計画作成に向けての単元構成と主体的・対話的で深い学びの考え方	職員 5名
15	8月26日(月)	若葉台小学校	校内研修 総合的な学習の時間	◆授業づくり 総合的な学習の時間の年間指導計画作成に向けての単元構成と主体的・対話的で深い学びの考え方	職員 5名
16	9月4日(水)	醇風小学校	校内授業 生活・総合・国語	◆授業づくり つながり合い、主体的に学び続ける児童の育成	職員 20名
17	9月11日(水)	桜ヶ丘中学校	校内研修 アセス活用	◆学級・学校づくり アセスの見取り方と生徒理解・支援への活かし方	職員 55名
18	10月9日(水)	河原第一小学校	校内授業 算数	◆授業づくり 算数科における河-スタンダードと児童の発言をコーディネートする教師の発問や問い返し	職員 20名
19	10月23日(水)	国府東小学校	小教研研究発表大会	◆授業づくり 自らつながりたくましく生きる児童の育成をめざした授業づくり	小教研 会員 100名
20	11月20日(水)	西郷小学校	校内授業 道徳	◆授業づくり 自分の考えを伝え、互いに深め合う道徳の授業づくり	職員 9人
21	11月27日(水)	北中学校	北中学校校内研修会	◆学級づくり 子どもたちのよりよい関係づくりに向けたアセスの活用	職員 47人
22	12月4日(水)	河原中学校区 合同研修会	中学校区 幼小中連携 研修会	◆授業づくり 幼保小中連携を視点とした授業改善と新学習指導要領の方向性	職員 70人

(2) 次代を担うとっとり教職員派遣事業

①ねらい

県外の先進的な取り組みや特色ある取り組みを進める学校及び大学、教育施設等へ教職員を1週間程度派遣し、教育への見識を高めるとともに鳥取市の教育を牽引する自覚と意欲を持った人材を育成する。

②実績

	テーマ	学校名	派遣者	派遣期間	派遣先
1	「自主テーマ」 プログラミング教育の普及に積極的に取り組んでいる企業とつながることで、プログラミング教育についての知識を広げ、実践力を高める。	若葉台小学校	教諭 松塚 真衣	令和元年6月3日(月) ～6月6日(木)	株式会社 ロボライズ (大阪府池田市神田)
2	「学校不適應の解消(未然防止)」 アセスの有効的な活用方法について先進校から学び、自校の生徒同士のつながりや人間関係を深める方策を考え実践する。	南中学校	教諭 中村 修大	令和元年6月17日(月) ～6月21日(金)	総社市立西中学校
3	「特色ある学校づくり」 義務教育学校の設立に向けた小中一貫教育の在り方	江山中学校	教諭 稲垣 彰浩	令和元年7月1日(月) ～7月3日(水)	京都大原学院
4	「自主テーマ」 自治力の育成	岩倉小学校	教諭 塩 晃	令和元年7月16日(火) ～7月19日(金)	八王子市立浅川小学校
5	「学力向上」 数学の力をつけ、数学が好きと言える児童生徒を増やす授業づくり	桜ヶ丘中学校	教諭 藤原 ゆかり	令和元年8月19日(月) ～8月23日(金)	秋田県にかほ市立仁賀保中学校 秋田県横手市立平鹿中学校
6	「学校不適應の解消(未然防止)」 特別活動の充実を通して、自己肯定感の醸成と協同する児童集団の育成を図り、児童の人間関係を改善する。	遷喬小学校	教諭 古川 由美子	令和元年8月20日(火) ～8月23日(金)	広島県庄原市立小奴可小学校

(3) 成果と課題

- 指導主事が各学校へ出かけ学校課題に応じた研修内容を提供することによって、集合研修を各学校の実践につなぐための具体的方策を創造することができた。
- 県外の先進的な取り組みについて、長期間派遣することで派遣先学校の取組実践を朝から晩まで丸ごと学び、多くの気づきを自校や所属する中学校区へ還元することができた。
- 各学校の課題解決や要請に対応したワークショップ型研修内容や次代を担うとっとり教職員派遣研修先について、情報を求められることが多かった。常に全国の最新の教育情報を提供するための役割が求められる。

令和2年度に向けて

- 研修と学校をつなぐ視点から、サポート研修の充実を図る。そのためには、鳥取市教育委員会の指導主事が研修講師としての役割を果たすことができるよう力量をアップすることが求められる。
- 次代を担うとっとり教職員派遣事業で、さまざまな学校課題や要望に応えることができるよう常に全国の最新の教育情報や先進的な取り組みをしている学校の情報、各自治体の教育施策などについて情報を集める。
- サポート研修や次代を担うとっとり教職員派遣事業の還元の様子を子どもや教師の姿から検証し、特色ある取り組みについては校長会や教育センターだよりなどで各学校へ発信し、取り組みの参考情報とできるようにする。

3 中堅教諭等資質向上研修 企画選択研修の事例

(1) ねらい

- ①キャリア体験：保育園・幼稚園・認定こども園・特別支援学校における体験活動を通して、園児・児童生徒の実態や指導者の関わり方を把握し、その成果を教育活動に反映させる。
- ②地域貢献体験：地域での行事等の体験活動を通して、地域との連携や人とのかかわりの重要性を理解し、自校の教育活動に反映させる。
- ③指導助言体験：授業研究会で指導助言を担当することで、学習指導の専門的知識・技能の向上を図る。

(2) 実績 対象者：16名（15校） ※小学校14名（13校）、中学校2名（2校）

①キャリア体験

体験先（学校・園）	人数	内容	時期	
特別支援学校	鳥取聾学校 鳥取大学附属特別支援学校	3人	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒との交流 ・特別支援学校教職員との協議・情報交換 ・施設見学 	10月 7月
保育園	賀露保育園 白ゆり保育園 さとに保育園 津ノ井保育園 わかば台保育園 河原あゆっこ園 西郷保育園 浜村保育園	10人	<ul style="list-style-type: none"> ○園児との交流 ・朝の登園指導 ・読み聞かせ ・水泳体験活動 ・自由遊び ・給食指導 ・もちつき体験（小学生との交流） ○園長、副園長、保育士との協議、情報交換 	7月～ 12月
幼稚園	第三幼稚園 第四幼稚園	2人		
認定こども園	ひかりこども園	1人		

<中堅教諭の声>

- 担任している学年の総合的な学習で手話について学んでいる。聾学校での体験で知ったことを子どもたちに伝え、子どもたちの手話に関する学習意欲を高めることができた。
- 笑顔でエネルギーに園児に接する保育士さんの仕事ぶりや、保育士さん同士の息のあった連携がとても参考になった。
- 子どもの注意を引き付けるメリハリのきいた声かけの仕方が大変参考になった。
- 年少児に関わる年長児の姿や給食の配膳等をてきぱき行う園児の姿を見ることができ、小学校1年でも、子どもたちでできる活動を増やしていきたいと思った。
- 事前に保育園から保育に関する資料をもらって体験を行った。園児を見る視点、保育について考える視点をもって体験に臨み、体験後の協議、情報交換にも活かすことができてよかった。
- 保育園での体験を通して、子どものやる気、意欲を大切に、遊びの中から学び、遊び切る子どもの育成を目指していることを学んだ。

②地域貢献体験

体験・活動先（公民館・場所等）	人数	内容	時期	
公民館活動	遷喬地区公民館 賀露公民館 面影地区公民館・面影小学校 松保地区公民館 浜坂地区公民館 岩倉地区公民館 湖山西地区公民館	12人	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館祭りの企画、準備、運営 ・夏休み「かろっこ塾」の企画、運営、参加 ・「いきいきおもかげっ子ひろば」のボランティア活動 ・敬老会の運営ボランティア活動 ・世代間交流イベントの打合せ、会場整備、当日のイベント運営 ・公民館主催工作教室への参加 	6月～ 10月

公民館活動	若葉台地区公民館・ 若葉台小学校 浜村地区公民館 逢坂小学校体育館		・地区運動会の事前協議・当日参加 ・公民館行事運営（キス釣り朝食づくり） ・公民館との異世代交流コンサート& 創立110周年記念イベント	
清掃活動	高山（西郷地区）	1人	・高山登山道清掃活動	7月
地区活動	美保地区 津ノ井小学校 千代川袋河原広場	3人	・大覚寺納涼祭 ・納涼祭でのボランティア活動 ・校区の「あゆ祭り」にスタッフ参加	6月～ 8月
<p><中堅教諭の声></p> <p>○あゆ祭り実行委員会に複数回参加し、祭りで地域を盛り上げたいという商工会や振興会の方々の熱い思いを知ることができた。</p> <p>○公民館のイベントを通して、「土曜日に子どもたちを地域につなげたい。子どもたちに、自分たちの地域により思いをもって育てほしい」という公民館長の思いを知ることができた。</p> <p>○敬老会を開催するために、地区の様々な団体関わっていることが分かった。例年、教頭が行っていた敬老会と学校の窓口を中堅教諭が担い、手紙や出し物について打合せを行うことができた。</p> <p>○異世代コンサートの打合せに参加し、企画・運営を行った。チラシ、ポスターを中心となって作成した。諸団体との連絡調整が大変だった。報連相の大切さを再認識した。</p>				

③指導助言体験

指導助言対象	人数	内容	時期
初任研（授業研究会）	8人	・初任研での指導助言、授業づくりへの協力	7月～2月
校内授業研究会	8人	・校内授業研究会での指導助言	10月～12月
<p><中堅教諭の声></p> <p>○初任者の授業研究会に向けて、指導案作成や事前研究会に関わり、授業づくりの指導を行うことができた。初任者への指導を通して、学習指導要領を読み直す等、自分自身の授業づくりを見つめ直すよい機会となった。</p> <p>○講師や初任者といった若手教員と日常の会話を大切にしている。分からないことや困っていることを相談してもらいやすいように、一緒に考える姿勢を大切に指導助言を行った。</p> <p>○子どもへの対応や授業づくりについて、事前研から関わり指導助言を行ったが、自分が普段行っていることでも、具体的なアドバイスとして、分かりやすく伝えることが難しかった。自分自身が勉強し直すことができた。</p>			

（3）成果と課題

- 中堅教諭は、体験活動とキャリア体験派遣先職員との協議・情報交換を通して、園児や児童生徒への指導・支援の在り方を学び、自校における幼保小連携計画の見直し等につなげることができた。
- 中堅教諭が勤務地の地域行事に参加し、学校と地域の窓口となって調整役を務めたことで、地域との連携の重要性についての理解を深め、地域と連携した学校行事等を活性化することができた。
- 中堅教諭は、指導助言体験を通して教科指導の専門性を高めると同時に、校内の若手教員等の授業づくりに関わることで、ベテランと若手をつなぐミドルリーダーとしての自覚が高まってきている。
- 中堅教諭が企画選択研修での学びを、より積極的に校内での取り組みに活かすことができるように過去2年間の取り組み事例を次年度の実施要項・手引で紹介する。

令和2年度に向けて

- キャリア体験研修では、園児や児童生徒の支援の在り方や環境づくりの工夫などについてより理解を深められるように、園児や児童生徒との交流だけでなく、必ず派遣先職員との協議・情報交換の時間を設定する。
- 若手教員の増加に伴い、中堅教諭が若手教員のメンターの役割を担うことへの期待も高まっている。来年度は、中堅教諭と若手教員との連携を推進する研修を企画していく。

4 先輩に学ぶ 講師研修会

(1) ねらい

先輩教師の授業参観・講話を通して、児童生徒一人一人を伸ばす授業づくりや学級経営（保健指導と保健室経営）について学び、学習指導・生徒指導に関する自己の課題解決を図る。

(2) 実績

開催日	会場	校長・授業者	内容	参加者
11/21	湖東 中学校	衣笠 洋 校長 國富 史郎 教諭	講話「教師としての姿勢」 授業公開 3年道徳「缶コーヒー」 講義「授業づくりと学級経営」	8名
11/26	美保南 小学校	濱津 良輔 校長 大呂 優香 教諭	講話「教師としての姿勢」 授業公開 4年道徳「かまきり」 講義「授業づくりと学級経営」	11名
11/28	湖南 学園	河上 照雄 校長 西山 直子 教諭	講話「教師としての姿勢」 授業公開 8年道徳「四十七年に感謝をこめて」 講義「授業づくりと学級経営」	13名
11/29	美保 小学校	杉本 仁詞 校長 有本 美紀 養護教諭	講話「教師としての姿勢」 実践発表「保健室経営について」	6名
12/5	末恒 小学校	岸田 一憲 校長 門脇 大輔 教諭	講話「教師としての姿勢」 授業公開 5年道徳「くずれ落ちただんボール箱」 講義「授業づくりと学級経営」	9名

(3) 成果と課題

- 校長講話では、教育の専門職として充実した教育活動を行うために、人間力を磨いていかねばならない等、教職の根幹にかかわる話があった。教師としての心構えを考えることができた。
- 先輩教師の授業を参観し、指導技術はもとより、児童生徒との信頼関係の構築の在り方、教材研究、授業改善の在り方等、授業に対する心構えを学ぶことができた。温かい学級経営を基盤とした授業から多くの学びが得られた。
- 養護助教諭は、学校では経験が浅い中で一人職であり、多くの悩みを抱えている現実があった。研修会では、先輩養護教諭から具体例を交えながら養護教諭としての姿勢や対応のポイント等を詳しく学ぶことができた。特に、質問場面では時間が足りなくなるほど各自の悩みが出され、改めて、養護助教諭が「先輩に学ぶ」研修をいかに渴望しているかが浮き彫りになるとともに、学びの機会として大変有意義な場となった。
- 講師の分掌もさまざまであり、議論が深まりづらい点があった。大切な学びの場として位置付けるためにも、グループ分けや協議題等を十分検討吟味し、一人一人が満足する研修を構築していくことが大切である。
- 受講者は日々の実践の中で困り感が特に強く、研修会の必要性を感じていた。「事前回答書」等で悩みを把握し、困り感に沿った研修になるよう努めていかなければならない。

令和2年度に向けて

- 研修内容は継続し、参加者が発言する時間を多く確保するため、グループ協議を設ける。また質疑の時間を設け、各自の疑問に対して深く学べる研修にしていく。
- 「事前回答書」の作成を依頼することで、悩みの実態に応じた研修内容を設定し、受講者自身が自分を振り返り、研修に主体的に臨めるようにする。

5 学校支援人材活用 ～小学校外国語・外国語活動支援員～

(1) ねらい・内容

- ・小学校外国語・外国語活動では、学級担任による指導を基本とするが、児童を外国語や外国の文化に慣れ親しませたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせたりするために、外国語に堪能な地域人材やネイティブスピーカーと触れ合うことが効果的である。
- ・小学校外国語・外国語活動のねらいであるコミュニケーション能力の素地の育成を図るために、外国語・外国語活動の授業を補助する人材を活用し、外国語教育の円滑な実施を図る。
- ・各学校が自主的に地域人材に依頼したり、鳥取市教育センターから紹介を受けたりして確保した支援員により、3・4年生の各学級につき年間10回以内、5・6年生の各学級につき年間14回以内の外国語・外国語活動の授業において担任の授業を補助する。

(2) 配置実績

- ・市の事業41校、県の事業24校で、24校が両事業を併用(2名配置は9校)
- ・配置した支援員は27名で、16名が兼務(最も多い支援員で5校)
- ・外国籍の支援員は8名、日本人支援員は19名

(3) 成果と課題

- 支援員は、豊富な指導経験を生かして楽しく授業支援を行い、外国語や外国文化に対する児童の興味・関心を高めている。
- 外国語に堪能な方に支援していただくことで、授業構成や活動の工夫等ができ、授業の質が深まっている。
- 鳥取市教育センターで実施した外国語活動支援員研修(6月3日)を11名の支援員が受講し、講義・演習や情報交換をとおして、小学校外国語・外国語活動先行実施の趣旨や担任とのティーム・ティーチングの在り方について理解を深めることができた。
- 鳥取市小学校教育研究会外国語活動部会の授業研究会に、のべ11名の支援員が参加し、授業参観や研究協議会への参加をとおして、新教材の活用方法や支援の在り方について理解を深めることができた。
- 支援員への連絡や授業内容の打ち合わせ、振り返りについて十分な時間確保が難しかった。
- 本年度、鳥取市は新学習指導要領を先行実施し、3・4年生で外国語活動を年間35時間、5・6年生で外国語を年間70時間行った。授業時間数の増加に伴い、支援員の活用時間は昨年度の約1.15倍に増加した。各校における外国語活動の充実を図るため、授業支援が可能な地域人材をさらに確保することや支援員全体の指導力を高めることが求められる。

令和2年度に向けて

- 新学習指導要領の完全実施にあたり、支援員配置のニーズがさらに高まることが予想される。小学校外国語・外国語活動の授業支援が可能な地域人材の確保に努める。
- 外国語活動支援員を対象とした研修に外部講師を招聘し、小学校外国語・外国語活動の内容と小学校外国語・外国語活動支援員の役割について理解を深め、学級担任と外国語・外国語活動支援員のコラボ研修を企画する。

6 きなんせ！English World

(1) ねらい

外国語指導助手（ALT）や地域の外国人との活動を通して、児童がたっぷりと英語にふれ、視野を広げ、英語で積極的にコミュニケーションしようとする意欲を高めるきっかけとする。

(2) 実績

（きなんせ！English World）土曜日 10:00～11:45 実施

回	期 日	活動内容	スタッフ	参加者
1	6月1日	夏をテーマにした活動【対象：5・6年生】 （バルーンゲーム、アルファベット大会、私は何？）	ALT 12名 支援員 3名	31名
2	10月19日	ハロウィーンにちなんだ活動【対象：5・6年生】 （ドレスアップ、ピーカー・ピーカー、パンクキンカービンク）	ALT 11名 支援員 5名	20名
3	12月14日	クリスマスにちなんだ活動【対象：3・4年生】 （スノーマン・ドレスアップ、クリスマスツリー、タイフーン）	ALT 11名 支援員 4名	33名

（きなんせ！English World キャラバン）水曜日実施

回	日 時	学校	スタッフ	参加者
1	5月29日	9:35～14:20 ① 若葉台小学校	ALT 6名	235名
		9:40～14:40 ② 福部未来学園	ALT 7名	226名
2	6月12日	9:15～11:05 ③ 浜村小学校(気高 中校区4小合同)	ALT 7名	小6年 55名 中1年 71名
		11:40～14:35 ④ 気高中学校		
		9:15～12:35 ⑤ 西郷小学校 13:00～14:40 ⑥ 散岐小学校	ALT 6名	30名 69名
3	6月26日	9:20～14:00 ⑦ 日進小学校	ALT 7名、支援員 1名	3～6年193名
		9:30～14:35 ⑧ 賀露小学校	ALT 6名	323名
4	7月3日	9:25～12:55 ⑨ 佐治小学校	ALT 6名	37名 中3年 32名
		13:10～14:35 ⑩ 千代南中学校		
		9:15～14:20 ⑪ 修立小学校	ALT 6名、支援員 1名	257名
5	9月18日	9:05～14:30 ⑫ 美和小学校(美和 小・神戸小合同)	ALT 7名	美和小 125名 神戸小 19名
		9:35～14:30 ⑬ 中ノ郷小学校	ALT 5名	235名
6	10月30日	9:25～11:30 ⑭ 美保南小学校	ALT 6名	5・6年 184名 110名
		12:15～15:30 ⑮ 倉田小学校		
		8:40～15:15 ⑯ 富桑小学校	ALT 6名、支援員 1名	224名
7	11月13日	9:30～14:25 ⑰ 遷喬小学校	ALT 5名、支援員 1名	101名
		9:40～14:45 ⑱ 鹿野学園	ALT 6名	156名
8	12月4日	9:30～13:05 ⑲ 国府東小学校	ALT 5名	90名 中1年 66名
		13:25～15:20 ⑳ 国府中学校		
		9:25～14:15 ㉑ 久松小学校	ALT 5名	267名

(3) 主なアクティビティ

小・低学年	○英語を聞いて体を動かしながら、外国人とのふれあいを楽しむ活動 (例)・フルーツ (動物、食べ物、色等) バスケットゲーム ・「好き・きれい」ゲーム (食べ物、動物等) ・数字を使ったアクティビティ
小・中学年	○英語を聞いたり単語を伝えたりしながら、英語にたっぷり触れる活動 (例)・ジェスチャーゲーム (動物、スポーツ、アルファベット等) ・伝言ゲーム (フルーツ、スポーツ、色等)
小・高学年	○外国語活動で慣れ親しんだ表現を用いて外国人とコミュニケーションする活動 (例)・コミュニケーション活動 (自己紹介、趣味、行ってみたい国、将来の夢等) ・インタビュー活動 (好きな動物、特技、スポーツ、食べ物等)
中学校	○外国語授業で身に付けた表現を活用して外国人とやりとりする活動 (例)・コミュニケーション活動 (鳥取について、自分の夢、文化の違い等)

(4) 成果と課題

○小学生が自主的に参加する「きなんせ! English World」を3回実施した。2月開催日については、冬場で悪天候になりやすい時期であり、参加する児童・スタッフにインフルエンザ等の感染症が流行しやすい時期でもあることから開催予定日から外した。毎回、ALT等15名以上の豊富なスタッフが集まり、参加した児童にとって魅力的な活動となっている。



○「きなんせ! English World」第3回は、初めて3・4年生のみを対象として開催した。リーダーとなるALTが中心となって企画・運営し、学年に合った活動内容となるように工夫した。事後アンケートでは、ほぼ全員が「楽しかった、また参加したい」と回答しており、満足度が高かった。



○ALT等が学校に出かけるキャラバンを8回実施した。実施時期と回数を精選し、昨年度より2回少なくした。合計21校を訪問し、約3,100名の児童生徒が外国人と英語でコミュニケーションする喜びを体験した。各学年の学習内容に応じて、ジェスチャー等の動作化を取り入れ、活動で使用する単語を増やしてALT等に質問したり答えたりしてコミュニケーションする場面を多くする等、活動内容を工夫した。「ALTと英語で話せて楽しかった」「もっと英語で話せるようになりたい」などの児童生徒の感想が寄せられ、意欲向上に寄与している。

□5・6年生での外国語科の全面実施に伴い、英語でのやりとりの場面設定の工夫や文字を意識した活動を増やす等の工夫をし、いっそうの充実を図りたい。

令和2年度に向けて

- キャラバンでは、新規ALTの着任時期を考慮して開催時期を設定する。3・4年での外国語活動、5・6年での外国語科の全面実施に伴い、各学年での学習内容に応じて活動内容を工夫する。
- 「きなんせ! English World」では、参加した児童同士による英語でのやりとりの場面設定を工夫し、各学年の系統性を意識することで発達段階に応じた内容にしていく。

7 適応指導教室「すなはま」「レインボー」の運営

(1) 入級状況

① 入級児童生徒数

計17名（小7名、中10名） ※3月末現在

		小学校						中学校			計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
すなはま	男	0	0	0	0	2	1	0	2	1	6
	女	1	0	0	1	1	0	3	2	1	9
レインボー	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
計		1	0	0	1	4	1	4	4	2	17

- ・今年度より入級検討会資料として「アセスメントシート」を活用した。児童生徒の実態把握に有効で支援の方向性が見えやすくなった。
- ・昨年度まで「すなはま」「レインボー」に入級していた継続児童生徒数は、6名である。
- ・入級時は緊張で表情が硬かったが、来所回数を重ねていくうちに表情が柔らかくなる児童生徒が多かった。一方、不安等でほとんど来所することができなかった児童生徒は6名いる。
- ・冬休み前後、すなはま教室に関する相談件数、入級児童生徒、見学・体験者数が増加した。
- ・1月以降すなはま教室体験者数は7名。すなはま教室での体験を積み重ねていく中で、学校復帰（相談室登校）につながった生徒もいる。

② 月別入級児童生徒数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入級児童生徒数	0	4	4	2	0	0	3	0	1	3	0	0	17

※2月以降、体験を継続した児童生徒については、新規入級児童生徒の数に含めていない。

③ 適応状況

段階	状 況	3月時点
1	ほとんど通級することができない	4
2	週1～2日程度の通級ができる	4
3	週3～5日程度の通級ができる	8
4	在籍校へ授業中や放課後に登校し、相談室等で過ごせる	1
5	ほぼ毎日、在籍校に登校できる	0
	合計（人数）	17

④ 卒業生進路状況 中学3年生2名（男子1名、女子1名）

- ・鳥取敬愛高等学校 1名
- ・クラーク記念国際高等学校鳥取キャンパス 1名

(2) 活動

「すなはま」教室 一週間の予定表						
		月	火	水	木	金
		読書・自主学習・プランニング(今日の学習予定を決める)				
午前	来室 (9:30~10:00)					
	10:00~10:50	学習①	体験活動	学習①		
	10:50~11:00	休けい		休けい		
	11:00~11:50	学習②		学習②		
	11:50	昼のつどい		昼のつどい	昼のつどい	そうじ
午後	12:00~12:30	昼食(お弁当)				
	12:30~13:00	昼休けい				
	13:10~14:00	集団活動	体験活動	集団活動	スポーツ(体育館)	* チャレンジ登校日を個別に設定 * 最終金曜日は閉室
	14:10~15:00	自由活動・今日のふりかえり				

① 学習

- ・午前中は個々のめあてに添った学習に取り組み、学習習慣を身につける自主学習時間を設定している。
- ・ほとんどの児童生徒が、教育指導員と相談しながら自分で計画を立てて学習に向かうことができた。中には学習空白があり、教科学習に向かえない児童生徒もいた。それらの児童生徒には点つなぎやワーク等、取り組みやすい教材を提示し、学習に対する姿勢の基礎づくりに努めた。
- ・体験的な学習(顕微鏡を使った観察等)を取り入れ、児童生徒の知的好奇心に訴える課題などを提供した。
- ・小中学生の学習支援を行うために学習支援員(数学・英語)を活用した。(10月~3月 各教科月2~3回ずつ)



② 集団活動

- ・生活経験を広げるとともに、集団での適応力や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に集団活動の時間を設定した。
- ・調理活動や制作活動、すなはま農園作業等、年間を通して計画的に目的意識をもって取り組むことができた。
- ・集団活動を通じて、入級児童生徒同士が互いの存在を意識しながら関わり合う場面が増えた。
- ・9月には、毎週水曜日の午後、鳥取県立豊学校手話普及コーディネーターと手話普及支援員を招き、手話体験活動を4回行った。



③ スポーツ

- ・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。
- ・スポーツを通して人と触れ合う楽しさを感じることができた。
- ・体力づくりプログラムを実施する時間を設定し、皆で連続ドリブルや8の字パスの記録を測ったり、バドミントン、卓球等を中心に運動を行ったりした。



④ 昼のつどい

- ・話をじっくりと聞く態度の育成、自分の生活を振り返るきっかけ作りをねらい、センターの全職員が交代で、テーマを決めて話をした。
- ・昨年度に引き続き、入級児童生徒も順番に自分の特技を披露したり、



興味のあることを紹介したりする機会を設けた。入級児童生徒の普段見ることのない新たな一面を発見することができた。

⑤ 体験活動

- ・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の4つの領域に分類し、年間計画を立てて実施した。
- ・地域の施設や人材を有効活用し、地域の良さを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に1日または半日を単位として設定した。
- ・市内小中学校の相談室登校等の児童生徒にも、外部に目を向け多様な経験をjする機会として参加を呼びかけ、入級児童生徒との交流を図った。

※入級児童生徒以外からの参加:延べ人数名(11校)

【令和元年度 体験活動一覧表】

期日	内容	場所	期日	内容	場所
5/8	仁風閣と久松公園と県立博物館	鳥取市東町	10/23	そば打ち体験と宇部神社見学	国府方面
5/14	調理実習と真教寺公園	すなはま教室	10/29	交流活動(なないろ)	鳥取市二階町
5/21	太閤ヶ平ハイキング	鳥取市東町	11/7	鳥取大学見学(ものづくり)	鳥取大学
5/28	山陰ジオパークと大地の自然館	岩美町方面	11/12	鳥取県警察学校と日本海新聞製作センター	鳥取市伏野
6/4	久松山登山	鳥取市東町	11/19	交流活動(福部保育園)	福部方面
6/11	ニュースポーツ	縣庁教育センター体育館	11/27	アート出前講座(参観日)	すなはま教室
6/18	梨の袋かけと砂の美術館	砂丘方面	12/3	餅つき	すなはま教室
6/25	調理実習と缶バッジ作り	すなはま教室	12/10	共同制作(折り紙)	すなはま教室
7/2	手縫いでものづくり	すなはま教室	12/17	鳥取地方裁判所・わらべ館見学	鳥取市西町
7/9	殿ダムと万葉歴史館の見学	国府方面	12/24	調理実習	すなはま教室
7/16	消防署と江山浄水場の見学	鳥取市吉成	1/14	マルサン工場と鳥取県生活協同組合見学	河原町方面
9/3	こども科学館とものづくり	鳥取市吉方温泉	1/21	書き初め・百人一首	すなはま教室
9/10	梨狩りと野外炊飯	砂丘方面	1/28	国際交流	県庁・すなはま教室
9/17	白兔グランドゴルフ	白兔方面	2/5	県警本部と出前講座	鳥取市西町
9/24	中国電力(出前講座)と傘踊り	すなはま教室	2/10	新日本海新聞社見学と中央図書館見学	鳥取市富安
			2/18	調理実習	すなはま教室
10/1	さじアストロパーク	佐治町方面	2/25	NHK見学	鳥取市寺町
10/7	ポニー牧場乗馬体験	鳥取市越路大谷			計34回



梨狩り体験



ポニー牧場乗馬体験



餅つき

(3) 保護者・在籍校・関係機関との連携

① 教育相談・情報共有

- ・保護者との個別懇談 → 年3回〈入級時、年度途中(8月)、年度末(2月)〉
- ・学校との教育相談 → 年2回〈入級時、年度途中(8月)〉
- ・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、上記以外にも随時教育相談を実施した。
- ・主任教育相談員とも連携して、保護者や本人の教育相談に応じた。
- ・「すなはまだより」(学校用・保護者用)を配付。(月1回)
- ・「月例報告」(学校用・保護者用)を送付し、来所回数や教室での活動について連絡した。
- ・来所が難しい児童生徒の保護者に対しては、定期的に電話連絡をし、本人・保護者の状況を把握すると同時に本人・保護者の心理的安定につながるよう支援した。

② 支援会議

- ・学校教育課生徒指導係やS S Wと児童生徒の状況について情報共有し、連携を図った。
- ・在籍校等はもとより、医療機関、こども発達支援センター、鳥取県いじめ・不登校総合対策センター、福祉相談センター、希望館等の関係機関と連携し情報共有をするとともに、児童生徒にとってより良い支援策を検討した。

③ 保護者研修会 令和元年11月22日(金)午後6時~午後7時半

『心の開放とリフレッシュ』 講師 浦木 恵子先生

- ・ワークショップを取り入れた講演で、自分との対話、他者との対話で客観的に自分を見つめる中で、改めて子どもの心に寄り添い、見守ることの大切さに気づかされたといった感想が参加者から寄せられた。
- ・ありのままの心の世界を受容すること、共感することが重要だと気づいた。



④ 参観日 令和元年11月27日(水)

- ・午前中は、鳥取県立博物館学芸員の方の指導のもと、光る絵具を使ってクラフト紙に幻想的な世界を表現した。
 - ・午後は、午前中のアート作品の鑑賞と今年度交流活動で発表した読み聞かせやハンドベルなどを保護者に披露した。
- また、4月から11月までの交流活動の様子をまとめたスライドショーをみなで鑑賞した。



⑤ 個人ファイルの作成・活用

- ・個人ファイルの記録
→1週間単位で目標を設定。日々の記録を綴り、児童生徒の成長を確認するとともに、支援の在り方について振り返りを行った。
ファイルは週末に所内関係者で回覧し、情報共有を図った。



(4) 成果と課題

- 週1回のペース、来所する曜日を決める等、児童生徒一人一人の状況やニーズに合わせて対応することによって、児童生徒が安心して来所できるように支援した。
- 体験活動のみならず、日々の集団活動等も計画的に行うことによって、児童生徒にとって見通しを持った活動を行うことができた。また体験を通して人との関わりも増え、児童生徒の表情にも明るさが増し、心身共にエネルギーが蓄えられた。
- 来所が難しく、なかなか外出できずに家にこもっている児童生徒への支援の在り方について、家庭・在籍学校・関係機関等とより密に連携して方策を考える必要がある。
- 来室児童生徒の増加に伴い、個別対応等の必要な児童生徒がいるが、ニーズに対応できる人的・物的環境の確保が難しい。

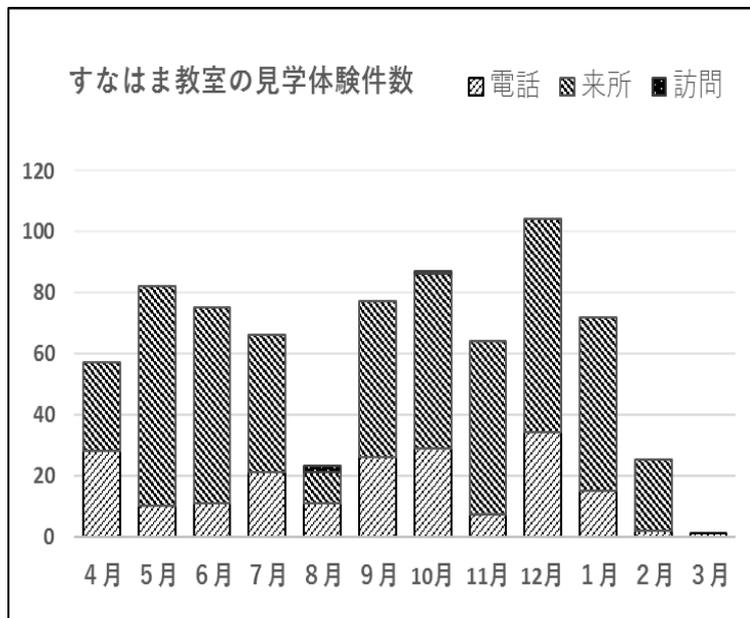
令和2年度に向けて

- 学校不適応未然防止の視点での在籍学校・関係機関と連携したアセスメントシートの効果的な活用に努める。

8 適応指導教室「すなはま」「レインボー」の相談状況

(1) すなはまの見学・体験に関する相談状況（件数）

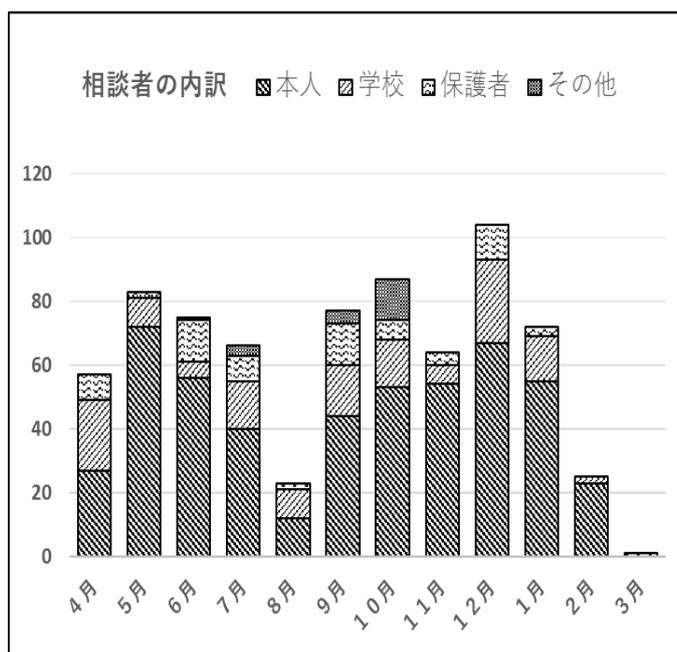
	電話	来所	訪問	全体
4月	28	29	0	57
5月	10	72	0	82
6月	11	64	0	75
7月	21	45	0	66
8月	11	10	2	23
9月	26	51	0	77
10月	29	57	1	87
11月	7	57	0	64
12月	34	70	0	104
1月	15	57	0	72
2月	2	23	0	25
3月	1	0	0	1
合計	195	535	3	733



- ・正式入級を決定するまでに、電話による相談や教育センターへの来所及び見学への対応を行っている。
- ・今年度は、5月から来所による訪問件数が多く、夏休み明け以降も一定の来所相談があった。

(2) 相談者の内訳（回数）

	本人	学校	保護者	その他
4月	27	22	8	0
5月	72	9	2	0
6月	56	5	13	1
7月	40	15	8	3
8月	12	9	2	0
9月	44	16	13	4
10月	53	15	6	13
11月	54	6	4	0
12月	67	26	11	0
1月	55	14	3	0
2月	23	2	0	0
3月	0	0	1	1
合計	503	139	71	22



(3) 入級児童生徒の状況 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
小2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小4	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
小5	0	1	1	1	1	1	2	2	3	4	4	4
小6	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中1	0	0	0	2	2	2	2	2	2	4	4	4
中2	0	2	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4
中3	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	0	4	8	10	10	10	12	12	14	17	17	17

- ・入級検討会を経て、正式に入級を決定した児童生徒の状況を示している。
- ・今年度は、小学生の入級児童の割合が多くなっている。

(4) 体験児童生徒の状況 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
小2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
小3	0	0	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0
小4	1	2	1	0	0	1	1	0	2	2	2	0
小5	1	0	1	3	1	2	1	0	1	0	0	0
小6	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
中1	0	0	3	2	0	1	1	1	1	1	0	0
中2	3	3	1	1	1	3	2	3	2	2	2	0
中3	2	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0
合計	9	9	7	10	5	10	6	5	7	8	5	0

- ・すなはまやレインボーでの生活への適応状況を見るために、入級が決定するまでの期間、体験を位置付けている。
- ・正式に入級が決定した時点で、この表から(3)へ移行している。
- ・体験の回数や期間は、児童生徒によって様々であるとともに、フリースクールへの体験を併用するケースもあり、活動内容や物理的環境等を勘案し、入級の方向性を検討している。

※令和2年3月2日より、新型コロナウイルス感染症対策により、鳥取市内小・中・義務教育学校が臨時休業となったため、適応指導教室も閉室とし体験の受け入れを中止した。

令和元年度 所報第13号

発行日 令和2年3月31日
発行所 鳥取市教育センター
〒680-0053 鳥取市寺町150番地
TEL (0857) 36-6060
FAX (0857) 26-3878
E-mail kyo-center@city.tottori.lg.jp
URL <http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391>

